

平成26年度全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 調査の対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年の全児童・生徒

受験者数	全国（公立）	東京都（公立）	葛飾区（公立）
小学校第6学年	1,080,663人	90,584人	3,340人
中学校第3学年	1,018,365人	74,375人	2,785人

(3) 調査の内容

○教科に関する調査（国語、算数・数学）

- <小学校第6学年> 国語A、算数A ※ 主として「知識」に関する問題
- 国語B、算数B ※ 主として「活用」に関する問題
- <中学校第3学年> 国語A、数学A ※ 主として「知識」に関する問題
- 国語B、数学B ※ 主として「活用」に関する問題

○生活習慣や学校環境に関する質問紙調査

(4) 調査実施日

平成26年4月22日（火）

(5) 調査の方式について

- 平成19年度～21年度 対象学年の全児童・生徒を調査 ※全校対象
- 平成22年度 抽出調査及び希望利用方式
- 平成23年度 未実施、希望する学校等に対して問題冊子等を配布
- 平成24年度 抽出調査及び希望利用方式
- 平成25年度 対象学年の全児童・生徒を調査 ※全校対象
- 平成26年度 対象学年の全児童・生徒を調査 ※全校対象

- ・抽出調査：都道府県毎に平均正答率が95%の確率で誤差1%以内になるよう抽出率を設定（抽出率約30%）。
- ・希望利用方式：抽出調査対象以外の学校は、学校の設置管理者の希望により、調査を利用することができる。

平成26年度全国学力・学習状況調査に関する本区の状況と改善策

1 小学校6年

(1) 国語A

①本区（平均正答率）

- ・全国を上回っている。

②具体的結果

- ・漢字の読みについては、高い正答率であった。
- ・漢字の書きについては、課題が見られた。
- ・故事成語の意味と使い方について、課題が見られた。

③改善に向けた取組

- ・漢字や熟語を書くことについて、文脈に合わせて確実に記述できるよう、意味や使い方も含めて丁寧に指導する。
- ・故事成語などの言語について、取り立て指導を行うとともに、3領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）の言語活動に関連付けて指導する等の授業改善を行う。

(2) 国語B

①本区（平均正答率）

- ・全国をやや下回っている。

②具体的結果

- ・詩の表現の特徴として適切なものを選択する問題については、高い正答率であった。
- ・立場を明確にして質問や意見を記述することに課題が見られた。
- ・分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けて記述することに課題が見られた。

③改善に向けた取組

- ・互いの考えを話し合う討論会などの機会を増やし、相手の主張を正しく引用して自分の質問や意見を述べることができるよう、段階的な指導を行う。
- ・授業のまとめを記述する際に、使用する言葉・文字数・構成などを指定して書かせる等、具体的で丁寧な指導を行う。

(3) 算数A

①本区（平均正答率）

- ・全国とほぼ同等である。

②具体的結果

- ・計算問題について高い正答率であった。
- ・コンパスを使った平行四辺形のかき方や、平行四辺形の特徴の理解に課題が見られた。
- ・青いテープの長さが白いテープの長さの0.4倍に当たるときの青いテープの長さを求

める式を選ぶことに課題が見られた。

③改善に向けた取組

- ・ 図表を観察して数量の関係を理解したり、数量の関係を表現している図表を解釈したりする場面を増やす等の授業改善を行う。
- ・ 乗法や除法の計算技能に偏るのではなく、立式をするまでの過程を丁寧に扱い、乗法や除法の意味を理解できるような指導を工夫する。

(4) 算数B

①本区（平均正答率）

- ・ 全国をやや下回っている。

②具体的結果

- ・ 2位数×1位数のひっ算は高い正答率であった。
- ・ 示された分け方でスープを分けたとき、残りの30人にスープを分けることができるかどうか理由を記述することに課題が見られた。
- ・ 身長を基に、使いやすい箸の長さの求め方と答えを記述することに課題が見られた。

③改善に向けた取組

- ・ 問題文から読み取れる情報を整理したり、課題解決に必要な根拠を適切に選んだりする場面を増やす等の授業改善を行う。
- ・ 基準量と比較量、割合の関係を図で表して発表し合う等、課題解決の過程に重点を置いた指導を行う。

(5) 生活調査結果

- ・ 「家で学校の授業の予習をしている」について、全国、東京都、平成25年度の本区を上回っており、家庭学習の習慣が徐々に定着してきていることが分かる。
- ・ 「家で学校の授業の復習をしている」について、東京都、平成25年度の本区を上回っているが、全国を下回っており、引き続き家庭学習の習慣化を図る必要がある。
- ・ 「授業のはじめに目標が示されている」について、東京都・全国を上回っている。昨年12月より「葛飾教師の授業スタンダード」に積極的に取り組んだ成果であると考えられる。
- ・ 「学習時間」「読書」の調査項目について、東京都を下回っているが、平成25年度の本区との比較においては上昇している。引き続き、指導の工夫を継続していく必要がある。
- ・ 「自己肯定感」に関する2つの質問項目については、平成25年度の本区との比較においては上回っており、学校の取組が着実に実を結んでいることが読み取れる。しかし、全国、東京都と比べると、大きく下回っており、引き続き、児童の自信と誇りを育むために、「自分の考えを発信する」「互いの考えを聞き合う」「よさを認め合う」など指導の工夫に重点を置いて取り組む必要がある。さらに、教師をはじめまわりの大人が児童をほめることを意識的に行うことが必要である。

2 中学校3年

(1) 国語A

①本区 (平均正答率)

- ・全国とほぼ同等である。

②具体的結果

- ・漢字の読み、語句の意味理解については、高い正答率であった。
- ・文学的な文章における描写や主人公の心情の読み取りについて高い正答率であった。
- ・漢字を書くことや、辞書を活用して難語句の意味を文脈に即して理解することに課題が見られた。
- ・二人の発言を聞いて、意見の相違点を整理することに課題が見られた。

③改善に向けた取組

- ・日常的な語句・語彙の指導に加え、なじみがない語句の意味について、辞書で意味を確認したり、例文を作ったりして、理解を確実にしていく。
- ・話し合いの授業では、発言を整理する観点や、整理に有効な図表について考える場面を設定する等、話し合いを充実させるための工夫について指導する。

(2) 国語B

①本区 (平均正答率)

- ・全国をやや下回っている。

②具体的結果

- ・落語に登場する人物の言動から、その姿を想像する問題は高い正答率であった。
- ・複数の資料を比較して読み、要旨を捉えることに課題が見られた。
- ・資料から適切な情報を得て、伝えたい事柄を記述することに課題が見られた。

③改善に向けた取組

- ・読む目的を明確にした上で、中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、必要な情報を正しく得るような指導を工夫する。
- ・様々な本や資料を読み、自らの課題を解決するための言語活動を設定し、自分が伝えたいことを記述する機会を増やす等の授業改善を行う。

(3) 数学A

①本区 (平均正答率)

- ・全国をやや下回っている。

②具体的結果

- ・35を基準にして38を正の数で表す等、「数と式」領域は高い正答率であった。
- ・円柱と円錐の体積関係、関数の意味理解、度数分布表から相対度数を求めることに課題が見られた。

③改善に向けた取組

- ・図形を紙で作ったり、コンピュータを利用したりして、視覚的に理解できるような指導を工夫する。
- ・計算だけではなく、具体的な場面を提示して、式と場面を関連付けて指導する等の工

夫を行い、知識・技能の定着を図る。

(4) 数学B

①本区（平均正答率）

- ・全国をやや下回っている。

②具体的結果

- ・外から校舎を見た図で、案内図に示された非常口の位置を選ぶ問題が高い正答率であった。
- ・確率に関して正しい記述を選び、理由を記述することや、グラフの特徴を読み取り、結果を改善して問題を解決する方法を記述することに課題が見られた。
- ・関数の考え方をを用いて2つの数量関係を説明することに課題が見られた。

③改善に向けた取組

- ・確率の解答を求めるのみでなく、求めた解答を、自分の考えの根拠として説明するような授業展開の工夫を行う。
- ・グラフ等の資料の傾向を読み取り、記述することを重視した授業改善を行う。

(5) 生活調査結果

- ・「家で学校の授業の予習をしている」について、全国、東京都、また平成25年度の本区を上回っている。しかし、学力調査の結果を踏まえると、引き続き予習の方法について具体的に教えるなど、指導の工夫が必要である。
- ・「家で学校の授業の復習をしている」について、東京都、また平成25年度の本区を上回り、東京都とほぼ同様となっている。引き続き、基礎学力の定着につながる復習の方法について指導を継続していく。
- ・「授業のはじめに目標が示されている」において、東京都を上回っている。昨年12月より「葛飾教師の授業スタンダード」に積極的に取り組んだ成果であると考えられる。めあてを生徒自身が十分に理解した上で授業を進めるよう、めあての提示に関して、校長による授業観察を通じた指導を継続していく。
- ・「学習時間」について、全国、東京都、平成25年度の本区との比較において下回っている。家庭学習の内容についてもきめ細かな指導の継続が必要である。
- ・「読書」「規範意識」について、全国、東京都を下回ってはいるものの、平成25年度の本区との比較においては上回っている。引き続き、読書指導、きまりを守る指導について工夫していく。
- ・「自己肯定感」に関する2つの質問項目については、平成25年度の本区との比較においては上回っており、学校の取組が着実に実を結んでいることが読み取れる。しかし、全国、東京都と比べると、大きく下回っており、引き続き、児童の自信と誇りを育むために、「個々のよさを引き出す」「互いのよさを認め合う」「自らの行動をふり返り、よさを自覚する」などを取り入れた指導の工夫を重点に取り組む必要がある。生徒の自尊感情や自己肯定感を高めることに関する区の教員研修を計画的に進めていく。